

# Green Port Report



#### **Contents**

## 成田空港のESG最前線

- ・「Scope3環境価値」によるSAF利用促進プロジェクトを開始
- ・使用済PBBタイヤの利活用に関する実証実験
- ・第1回eスポーツ大会を開催

#### NRT APPROACH

・アジアの空港で初めて Airports for Innovation(A4I)に加入

#### 数字で見る成田空港

- ・国際線航空旅客の外国人比率が76%に
- ・国際航空貨物総取扱量が4カ月連続の増加

#### 先生に伺いました

·(株)日本総合研究所 藻谷 浩介 主席研究員

#### 協働の現場を訪ねる

・株式会社NAAリテイリング× NAA リテール営業部



特集

## 『新しい成田空港』構想

とりまとめ2.0を

国に報告

『GREEN PORT REPORT』は、 WEBでもご覧いただけます。

https://www.naa.jp/jp/issue/greenport/list.html



# 『新しい成田空港』構想

#### とりまとめ2.0を国に報告

NAAは成田空港の将来像を検討するため、2022年10月に、学識経験者、国、県、地元市町で構成する、『新しい成田空港』構想 検討会を設置した。2023年3月には中間とりまとめを発表し、旅客ターミナル、貨物施設、空港アクセス、地域共生・まちづくりの4 項目について目指すべき方向性が示された。今回のとりまとめ2.0はさらに具体的な検討を重ねて、今年の7月に国土交通省航空 局長に報告したもの。その概要と、整備ステップ・スケジュールイメージについて紹介する。

#### ※新旅客ターミナルと新貨物地区の配置イメージ



#### とりまとめ2.0概要

成田空港の新滑走路整備や、首都圏空港の容量拡大、航空物流機能の強化は、国の 政策として求められている。そのため国家プロジェクトとして、C滑走路の新設をはじめと する"更なる機能強化"が進められてきた。しかし、世界各国が新空港の整備や機能強化 に精力的に取り組んでいる中、成田空港が世界レベルの空港であり続けるためには、航 空機能の強化にとどまらず、空港全体の能力向上も急務となっている。

さらに、災害やパンデミックへの対応、脱炭素社会の実現、地域の産業振興と雇用機会 の創出など、取り組むべき課題は多岐にわたる。『新しい成田空港』構想はこうした課題 意識のもと、右記の4項目を軸として、成田空港の将来像について方向性をとりまとめた。

## 『新しい成田空港』構想の方向性



#### 皆様と共に成田空港の、日本の未来をつくりたい

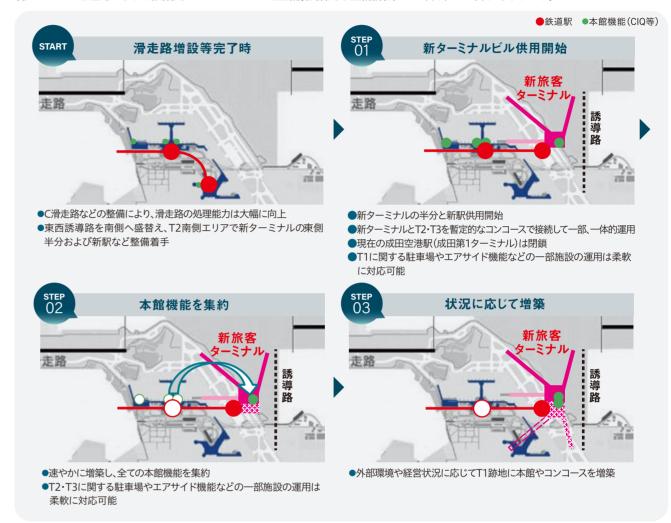
ら、頭を悩ませながら、喧々諤々の議論をしな 協力をよろしくお願いいたします。

『新しい成田空港』構想は、空港だけではながら、少しでも前に検討を進めていければと く、アクセスや地域づくりも含めた4つの項目 感じています。次世代に、明るい成田空港、そ を軸として構成されています。いずれも空港して元気な日本を引き継げるように、長いス 会社が単独でできる範疇にとどまらず、今後、パンになりますが、皆で手を携えて頑張って 多くの関係する方々とひざを突き合わせなが 行ければと思っています。今後の皆様方のご



#### ※新旅客ターミナルの整備ステップイメージ

現ターミナルを運用しながら段階的にワンターミナルを整備。段階的な整備計画として、以下の一例があげられる。



#### ※整備スケジュールイメージ

各施設については、"更なる機能強化"による滑走路の完成などから大きく遅れることなく供用を目指す。各施設の整備スケジュール は以下を想定している。



#### 『新しい成田空港』構想とりまとめにおいて示された今後の進め方

現在も、旅客利便性向上、新技術導入による効率化・省力化、就労環境の改善、周辺地域での居住推進・航空関連産業誘致など、中 長期的な施設整備を待たずに構想の実現に向けて取り組みが始められている。これらは、複数の関係者の緊密な連携が必要不可欠で あり、引き続き、それぞれの理解と協力、更には、さまざまな関係者の主体的な取り組みにより、構想の実現を推進していく。 なお、国においても、今年9月に「今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会」を立ち上げ、空港施設整備や鉄道アクセスといっ た成田空港の施設面での機能強化について検討が始まったところである。



**▲くわしくはNAAの** HPをご覧ください



## 成田空港のESG最前線(図)



成田空港および地域の持続的な発展に向けて、NAAではESGの取り組みにいっそう力を注いでいる。 最新の取り組みを、業界の動向などを踏まえながら紹介する。

### nvironment 環境

## ▶「Scope3環境価値」によるSAF利用促進プロジェクトを開始

#### ■これまでのSAF導入に関する取り組み

航空に関する脱炭素化の手段として、CO2排出量を大幅に削減できるSAF(持続可能 な航空燃料)の利用が期待されている。成田空港は2020年に初めてSAFを導入し、2021 年にはSAFの利用促進を含む「サステナブルNRT2050」を策定。2022年には国内で初め て、国産SAFをハイドラントシステムで航空機に供給した。

航空会社でもSAFの導入は進んでおり、2024年9月には台湾桃園市に本社を置くチャ イナエアラインが、台北-成田間の往復にSAFを導入した。東京発路線でSAFを使用する のは台湾航空業界初の試みで、成田空港ではイベントも開かれた。



チャイナエアラインのSAF導入イベントの様-

#### ■今回のプロジェクトの目的

今年8月に開始したプロジェクトは、「Scope3環境価値」を取引する新たなスキームの構築を 目的としている。その第一弾として、NAAを含む7社合同で取引の実証実験を始めた。

航空会社がSAFを利用すると、航空機から直接排出されるCO2(航空会社のScope1)が削減 される。それと同時に、航空貨物輸送や旅客(社員の出張も含む)などにより排出される間接的 なCO2(航空利用者のScope3)の削減効果が発生する。これを「Scope3環境価値」と呼び、SAF による航空輸送を利用した企業は、自社のScope3排出量を削減することができる。この取引が 活発になれば、航空輸送のバリューチェーン全体でSAFにかかるコストをシェアすることが可 能になり、SAF利用促進の後押しになると期待される。

燃料供給事業者、航空会社、フォワーダー、空港会社が一堂に会して「Scope3環境価値」の 取引を活性化させる取り組みは世界初。今後は参画企業を拡大して本格的な実証事業も行い、 構築したスキームの社会実装を目指していく。

## Scope3 環境価値

事業者のCO2排出量は、Scope1 (自社の燃料使用に伴う直接排 出)、Scope2(他社から購入する 電力などの使用に伴う間接排 出)、Scope3(Scope1、Scope2 を除くサプライチェーン全体に 関連する間接排出)に分けられ る。航空会社はSAFを導入す ることでScope1を削減し、 「Scope3環境価値」を提供。フォ ワーダーなどは「Scope3環境価 値」を購入することで、Scope3 を削減することができる仕組み。



#### invironment 環境

### ▶使用済PBBタイヤの利活用に関する実証実験

NAAは昨今、廃棄物の資源循環・有効活用に注力し、 Yahoo!オークションや航空ジャンク市(航空科学博物館開催) に「空港退役グッズ」として出品してきた。この取り組みの一環 として今年6月、株式会社ダイトーコーポレーションと連携し て、搭乗橋(パッセンジャーボーディングブリッジ:PBB)で使用 されたタイヤの利活用に関する実証実験を開始した。

PBBタイヤは直径が約1メートルと航空機用タイヤ並みの大 きさで、保管や処分が空港運営上の負担となっていた。そこで、 タイヤが船舶の防舷材(緩衝材)として使われることに着目し、 使用済PBBタイヤにも利活用の可能性があるとして提携先を 求めたところ、成田空港への航空燃料の荷揚げを含む港湾作 業などを手掛けるダイトーコーポレーションの協力を得た。

今回の実験で有効性が実証されれば、環境負荷の低減とコ スト削減につながる取り組みとなる。NAAでは今後も、空港の 脱炭素化やリユース・リサイクルの輪を広げるなど、持続可能な 空港運営を目指して、積極的に新たな試みに取り組んでいく。







使用済PRRタイヤの搬出作業

タイヤを防舷材に用いた防災曳船[ほくと] (ダイトーコーポレーション保有)

### ocial 社会

### ▶第1回eスポーツ大会を開催

航空業界では人材不足が課題であり、成田空港においてもグラン ドハンドリングや保安検査では喫緊の課題となっている。そのため NAAは、空港従業員同士の交流を促し、長く働き続けたいと思われ る職場環境づくりにつなげることを目的に、6月7日に第1回eスポー ツ大会を開催した。

2023年11月に実施した「eスポーツを活用した実証実験」が好評 だったことを受けて、5月に企画検討委員会が発足。参画企業は実証 実験時より増えて16社となり、20・30代の若手社員が各社の代表と して委員会に参加した。

ゲームの選定にあたっては実際に委員会メンバーでプレイし、どの ゲームがよりコミュニケーションを活発にさせるかを検討。大会の キャッチコピーも考案した。eスポーツ大会自体はもとより、開催に向 けて取り組む過程も、会社の枠をこえて空港従業員同士が交流を深 めた。





3

#### 成田空港の最新の取り組みを紹介する

# \*NRT APPROACH

アジアの空港で初めて

## Airports for Innovation(A4I)に加入

NAAは、空港におけるイノベーションを推進する空港運営事業者 のアライアンス「Airports for Innovation (A4I) に、アジアの空港と して初めて加入した。

A4lはイタリアのAeroporti di Roma\*1とスペインのAena\*2が 2021年5月に設立。空港の利用体験向上を目指して、最新技術やデ ジタルソリューションを共有し、協力してイノベーションを推進するこ とを目的としている。参画する空港はNAAで10社目となる。

そしてこの度、スタートアップ企業から新しい技術や革新的なアイ デアを募るオープンイノベーションプログラムを開始した。募集テー

- ①Seamless travel experience: デジタル技術などにより、旅行 全体をスムーズで効率的な顧客中心の体験とするアイデア
- ②Sustainable Aviation:ネットゼロ航空を実現するための、環 境への影響を低減するソリューション
- ③Smart Luggage Revolution: 旅行者の利便性、セキュリティ、 サステナビリティ向上を実現する手荷物ソリューションの開発



④Al-Powered Airport:運営効率、旅客体験、および総合的な航 空マネジメント向上のためのAI活用方法の創出

NAAではすでに、昨年6月にオープンイノベーションプログラムを 実施しており、実証実験や事業化の検討を進めている。今後はさら に国内での協業はもちろんのこと、A4Iを通して、世界各地の革新的 な空港とのネットワークを生かし、新たなサービスの提供や技術の 導入を進めていく。

※1 ローマ大都市圏のフィウミチーノ空港・チャンピーノ空港を運営するイタリアの空港運営企業 ※2 スペイン・マドリードに本拠を置き、国内外に80空港を運営する空港運営企業



## 数字で見る成田空港 成田空港の最新の取り組みや動向を 「数字」の動きから紹介する。

外国人比率が 76%に

※通過客を除く



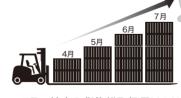
が好調。中国発は上海・北京が特に好調で、団体予約も増えてき ている。北米発は、アジアへの通過需要はやや減少しているが、 これはインバウンド需要増の影響もあると考えられる。

円安の影響もあり、国際線外国人旅客数は6カ月連続で当該

月の最高値を更新した。今後もイ ンバウンド客にとって利便性・旅 客体験価値の高い空港づくりに 努めていく。



国際航空貨物総取扱量が 4カ月連続の増加 169.542t



7月の輸出入貨物総取扱量は169,542tで、4カ月連続の増加 となった。2019年同月比は98%であり、コロナ禍前と同水準ま で回復している。

輸出においては、中国向け半導体製造装置が引き続き好調。輸 入においては、アメリカ来の医薬品が好調であったほか、化粧品

類、魚介類も好調に推移している。

『新しい成田空港』構想では、 新貨物地区の整備も重点課題の 一つであり、空港物流機能の強 化を進めていく。



## 先生に何いました

#### 【今回お聞きしたいこと】

国際線ネットワークを強化するうえで 特に需要が見込まれるエリアは どこですか?

日本の空港や航空 会社が重要視する べきネットワーク のポイントを教え てください!



NAA 経営計画部 嶋田 海斗さん

インバウンド需要が好調な中、成田空港は更なる国際線ネットワークの強化に取り組んでいます。 世界各国の情勢に詳しい(株)日本総合研究所の藻谷浩介さんに、重視すべきエリアはどこか伺いました。

#### 太平洋・大西洋・インド洋の 3つの世界で世界情勢を考える

この広い世界を、どう区分すれば理解 しやすいだろうか。アジアという括りは 大きすぎるし、中も多様に過ぎる。アフリ カや南米も、陸路が未発達でそれぞれ 幾つかのブロックに分かれたままだ。

筆者は最近、世界の隅々を私費で巡 る中から、太平洋、大西洋(+地中海)、イ ンド洋の3つの大海それぞれを囲むよう に、経済や文化でつながった3つの世界 があるとの理解をするようになった。(な お、その3つの環からやや遠く、発展も 遅めで方向も定まりにくいのがロシアや 中央アジア諸国だが、以下では触れな (1)<sub>0</sub>

日本は太平洋の島国だが、開国以来、 大西洋世界の欧州や米国東海岸に由来 する、学術・文化・政治スタイルを受け入 れて、国づくりをしてきた。そしてその日 本をモデルに、中韓台やASEANもいわ ゆる雁行型の発展を遂げ、前世紀末か らは太平洋世界が、地球の経済的な中 心に躍り出ている。そんな発展の受益者 には日本のほか、太平洋世界の中で最 大の資源供給者である豪州や、米国の 西海岸、チリなどもある。

そんな中で米国は、大西洋と太平洋 の両方の世界に属する国だ。大西洋岸 は先に工業地帯として発展し、太平洋岸 は東アジアの発展を追い風にITイノ ベーションの中心に躍り出た。両者を幾 重もの物流・人流動線でつなぎ、2つの 世界でそれぞれキープレーヤーとなって

しかしそんな日米両国の盲点となっ ているのが、急速に発展するインド洋世 界とのつながりの弱さだろう。

#### 活気溢れるインド洋世界との 積極的な交流を

大西洋世界は、成熟して久しい。太平 洋世界も、急速な少子化による人口減 少に、日本、韓国、中国の順に見舞われ つつある。この点インド洋世界では、事 態の進展が30年ほど遅い。

でも、大西洋側より経済発展が速めだ。

インド洋の内湾のペルシャ湾に面した 諸国も、ハブ空港と都市開発を競うこと で、急速にプレゼンスを高めている。

筆者は、世界的に特に評価の高い、カ タールの首都ドーハのハマド空港を、し ばしば利用する。巨大な空港施設は24 時間、雑踏に溢れている。この活力を、日 本人と日本企業は、どれだけ実感できて いるだろうか。

先んじて高いのは、インド洋世界の側 からの日本への関心だ。ドーハと成田を 往復する便は、訪日外国人客を中心に 常に混雑している。太平洋とインド洋の 両方にウィングを広げるシンガポールに 倣い、日本もインド洋世界との交流と理 解を深めたいものだ。

インド、バングラデシュ、パキスタンに は18億人近い人口がある。南アフリカや ケニアなど、アフリカ大陸のインド洋側

発展めざましい インド洋世界との交流は 日本社会にも 活気をもたらしてくれる

はずです



#### 藻谷 浩介素 答えてくれた先生は -

山口県出身。2012年より(株)日本総合研究所主席研究員。 平成合併前の全3,200市町村、海外137カ国を自費で訪問し、 地域特性を多面的に把握。地域振興、人口成熟問題、観光振 興などに関し研究・著作・講演を行う。

協働の 現場を 訪ねる

リテール事業編

## "免税店"の枠にとらわれない 思い出に残る商空間づくりを

免税店をはじめとした成田空港のリテール事業は、インバウンド需要の増加を受けて好調に推移し、2023年度の売上高は過去最高となった。訪日リピーターも増える中、店づくりにはこれまで以上の創意工夫が求められている。株式会社NAAリテイリング(NAAR)で免税店・ブランドブティックの運営に携わる鈴木氏と、NAA大島氏に話を伺った。

#### 旅の終わりのリアル店舗として 空間も体験も楽しんでもらいたい

大島:私は昨年6月までNAARに4年間出向していて、鈴木さんとはデスクが隣同士だったので、他社の人というより職場の先輩という感覚ですね。NAAに戻ってからもリテール営業部のマネージャーとして、リテール関連のプロジェクトや新店舗の誘致に加え、NAARの全店舗を担当しており、店舗運営に関する相談などで日々やりとりしています。

鈴木: NAARの店舗は成田空港に80以上あり、私が担当している 免税店・ブランドブティックはその半数ほど。免税店といえば化粧 品・酒・たばこのイメージですが、「化粧品・香水」「酒・たばこ」に分 け、専門店として運営しているのが当社の特徴です。その他にも菓 子や電器製品などを扱う店舗も複数展開しており、接客スキルの 高さや商品ラインナップにこだわるのはもちろん、近年はエン ターテインメント性のある店づくりにも力を入れています。

大島:昨年オープンした「Fa-So-La TAX FREE AKIHABARA アキハバラ+」もそのひとつですよね。迫力満点のオブジェやきらびやかなネオン装飾は、お客さまの目を引きますし、ショッピングをより楽しんでいただける空間になっていると思います。

鈴木: 空港の店舗は街中の商業施設と違って、ショッピングができるのは飛行機に搭乗するまでという時間制限がありますし、さまざまな国の方がいらっしゃいます。だから、商品の魅力をいかにわかりやすく伝えるかはとても重要。パッと目を引くお店づくりも大切ですね。特に海外のお客さまにとっては日本で最後のリアル店舗になりますから、その空間や体験も含めて楽しんでいただきたいです。大島: 最近は訪日リピーターのお客さまが増えているので、また行きたい、と思っていただける店舗にしたいですね。商品ラインナップの鮮度維持も欠かせません。

**鈴木:**今はSNSですぐに情報が広がるため、「あのメーカーのこのお菓子がほしい」と指名買いされるお客さまも多いですよ。だから私たちも、人気の商品はできるだけすぐ仕入れるようにしています。空港の店舗には、たとえば旅行中にお土産を買い損ねても「空港で買えるだろう」という期待に応える、安心感のある商品ラインナップが必要なのですが、それだけではお客さまのニーズを満たせません。成田空港でしか、当社店舗でしか買えない限定商品や、希少品のラインナップにも力を入れており、お客さまからも好評です。これまでの免税店のかたちにとらわれず進化していきたいですね。



NAA リテール営業部 第一営業グループ

大島 ちひろさん



#### 常に最新のニーズを探り ブラッシュアップし続ける

大島:リテール事業はコロナ禍の影響を大いに受けましたが、コロナ禍後のインバウンド需要の増加と、円安傾向も追い風になって、2023年度の空港全体のリテール事業の売上は過去最高になりましたね。

鈴木: NAARとしても過去最高でした。コロナ禍前との違いとして、 アジア圏のお客さまの購買額が増えています。中国のお客さまはも ちろん、ベトナムやフィリピン、インドネシアなどのお客さまが増え、 今まで以上にたくさんお買い物をされています。

大島: 需要回復への対応はお客さまが増えてからでは遅いので、コロナ禍の間も地道に取り組んできたことが報われたと感じます。回復を見据えて、新しい店舗やブランドを誘致したり……。

鈴木: 今秋にオープン予定の新たなコンセプトの酒専門免税店も、数年がかりでしたからね。免税業界の商談会の機会も活用して2年以上前に交渉を始めましたが、当時はいつコロナ禍が明けるか見通せず、ブランドの担当者も慎重になっていたので、交渉が大変だった記憶があります。ようやくオープンしますから、ぜひ多くのお客さまにお越しいただきたいですね。

大島:人が旅行をする限り、空港内のリアル店舗は発展し続けます。一口にインバウンドと言っても客層や売れ筋商品は変化しますから、常にお客さまのニーズを探り、購買意欲を盛り上げる商空間としてブラッシュアップしていきたいと思います。

#### Check!

ご意見・ご感想などございましたら、こちらの二次元コードを読み込んでお送りください。

